

総合的な学習の時間学習指導案

呉市立港町小学校 指導者 柚中 妙

日 時 令和3年10月26日(火) 13時55分～14時40分
学年・学級 第4学年1組 男子20名 女子18名 計38名
単元名 「いざというときのために～自分たちの命を守る方法を知ろう～」

1 単元について

本単元の目標

- 地域の環境、防災のための安全な町づくりとその取組について調べ、自分たちの命を守るために、何ができるかを考え、協働して自分なりに解決しようとする態度を養う。

単元観

本単元は、本質的な問い「地域と共に生きるにはどうすればよいのだろうか」を基に、災害時の身近な課題について調べ、自分や家族の命を守るために「自分にできること」という視点から自らの課題を設定し、解決していくことを通して、本中学校区で設定した資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体性】を育成することをねらいとしている。

本校区では、これまで豪雨災害で大きな被害を受けたことはないが、校区内には急傾斜地等、今後災害の被害を受ける可能性のある場所が複数あることが分かっている。そこで、本単元では、地域の特徴を児童が自分で確かめながら、自分たちの命を守るために必要な備えなどの情報を整理・分析して、自分なりに行動するという目的意識を持って探求することができる教材であると言える。

児童観

本学級の児童は、9月に行ったアンケートで「夏休みに家族で災害の避難場所についての話をした」と答えた児童は47%、「家に災害用持ち出しバッグを準備している」と答えた児童は36%であった。このことから、災害への備えに対する緊急性を感じている児童の割合は低いといえる。

その後、社会科「自然災害からくらしを守る」の学習をし、呉市で起きやすい災害やその備え等、防災についての知識や情報を少しずつ増やしている。

指導観

指導にあたっては、探求的な見方・考え方を働かせることを重視して、各教科等を効果的に関連させて単元を構成する。まず、社会科単元「自然災害からくらしを守る」において、家庭や市の防災の備えについて調べる活動を通して、自分の今の生活に立ち返って問いをもたせる。また、国語科単元「学校についてしょうかいすることを考えよう」では、学んだ紹介の方法や新聞作りなどの中から相手に分かりやすい表現方法を選択させていく。

単元を通して、本質的な問い「地域と共に生きるにはどうすればよいのだろうか」を意識させ、「自分と地域とのかかわり」や「自分の生き方」に関わって、児童が自ら問いを見出すことができるよう、しかけを入れて単元計画を工夫する。

また、「両城中学校区授業スタイル」の「学び合う」の場面では、集めた情報をどのように整理・分析したかを明らかにして意見を出し合うようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・防災の視点を理解して、地域の調査を実施している。 ・課題の解決に向けて、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内にはどんな災害が起こりうるか等の課題を明らかにしている。 ・校区内の危険な場所や安全な場所について集めた情報を整理・分析して考えを深めている。 ・相手や目的に応じて、ICT機器等を活用し、分かりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の防災について関心をもち、課題解決のための方法を考えようとしている。 ・異なる意見や他者の考えを受け入れながら、自分でできる防災の備えについて考えようとしている。

3 指導と評価の計画（全21時間）

次 (時間)	学 習 内 容	評 価	
		評 価 規 準 【観点】	評価方法
一次 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題の設定 西日本豪雨災害の時に、港町小の校区でどんな被害があったかを調べる。(2時間) ○ 情報の収集 港町小の校区でどんな災害が起こったか、また、これから起こりそうかを保護者にインタビューして意識調査する。(3時間) ○ 整理・分析 集めた情報を整理・分析する。(2時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の防災について関心をもち、課題解決のための方法を考えようとしている。 【主体性】 ・保護者に調査したい内容を考え、保護者にインタビューし、調査内容をタブレットに記入している。 【知・技】 ・校区内にはどんな災害が起こりうるか等の課題を明らかにしている。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート、発言 ・タブレット、行動観察、発言 ・マップ、ワークシート
二次 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな課題の設定 通学路付近にも災害の時に危険な場所、安全な場所があるかを調べる。(3時間) ○ 情報の収集 調べた危険な場所、安全な場所のカードをタブレットに集める。(3時間) ○ 整理・分析 集めた情報を基に分析する。(2時間) 【本時】 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災の視点を理解して、地域の調査を実施している。 【知・技】 ・校区内の危険な場所や安全な場所について集めた情報を整理・分析して考えを深めている。 【思・判・表】 ・課題の解決に向けて、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身に付けている。 【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート、タブレット、発言 ・ワークシート、タブレット、発言 ・マップ、タブレット、ワークシート

三次 (六)	○ 新たな課題の設定 整理・分析したことを基にして、自分たちはどんな活動ができるか考える。(1時間)	・異なる意見や他者の考えを受け入れながら、自分でできる防災の備えについて考えようとしている。 【主体性】	・ワークシート、発言
	○ 整理・分析 考えたアイデアが実現可能かどうか検討する。(2時間)	・考えたアイデアを観点に沿って、整理・分析し、考えを深めている。 【思・判・表】	・タブレット、発言
	○ まとめ・表現・振り返り 「一人一人が大切にすべきこと」をまとめ、伝えたい人に向けて発信する。(3時間)	・相手や目的に応じて、ICT機器等を活用し、分かりやすく表現している。 【思・判・表】 ・単元の最初と今の考えを比べて、自分が大切にすべきことを考えている。 【思・判・表】	・タブレット、ワークシート、発言 ・タブレット、ワークシート、発言

4 本時の目標

通学路付近の危険な場所や安全な場所についての情報を整理・分析し、交流することを通して、通学路付近の防災に関わる特徴を自分なりに考えることができる。

5 評価規準 (目指す児童の姿)

A 充分満足できる状況

通学路付近の危険な場所や安全な場所についての情報を整理・分析し、交流することを通して、通学路付近の防災に関わる特徴を自分なりに考えることができ、根拠を明確にして話すことができる。

B 概ね満足できる状況

通学路付近の危険な場所や安全な場所についての情報を整理・分析し、交流することを通して、通学路付近の防災に関わる特徴を自分なりに考えることができる。

過程	学習活動	指導上の留意点【思考方法】	評価規準
つかむ	1 前時の学習内容を振り返る。	○通学路別のグループで調べた校区内の危険な場所、安全な場所の調査活動 ○それぞれが集めた内容を整理して発表し合い、共通点や相違点を見付ける。	
	2 本時の問題を確認する。		
3 本時のめあてを確認する。			
	通学路近くの災害に関わる情報を整理すると、どんなことが分かるだろうか。		
	4 見通しをもつ。	○通学路別の10の小グループに分かれて、フィールドワークで撮った写真に、危険な場所、安全な場所だと思う理由をあらかじめカードに書いておく。	
	① 自分達の通学路では、どんな種類の危険な場所が多いのか。 ② 安全な場所はどんなところにあるのか。		

考 え る	5 グループトークを行う。	○小グループ毎に、司会者が話し合いのポイントに沿って進め、一人一人の意見を出し合った後、整理していく。	情報を整理・分析し、交流することを通して、通学路付近の防災に関する特徴を自分なりに考えることができる。 【思・判・表】 (行動観察、ワークシート、発言)
	6 本時のまとめをする。	<p>① 自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)</p> <p>② 安全な場所は()である。</p>	
	7 グループ間で交流する。	○自分達のグループで話し合った①～②のことについて相手グループに伝える。	
ま と め る	8 学習を振り返る。	○相手グループとの違いで気付いたことを振り返りに書く。	
	9 振り返りを交流する。	○通学路の場所によって、危険なところや安全なところが違うこと、気をつける災害にも違いがあることをおさえる。	

6 板書計画

10/26 ㊦ 通学路近くのきけんな場所、安全な場所を整理すると、どんなことが分かるだろうか。

<p>1 小グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見を出す。 出た意見をポイントにそって分類する。 グループの意見をまとめる。 <p>2 ペアグループで交流する。</p> <p>A①—A② B①—B② A③—A③ C①—C② C③—C④</p> <p>3 ふりかえり</p>	<p>(分類のポイント)</p> <p>しん水しそうな場所→①</p> <p>物がつまって水があふれる水路→②</p> <p>水がしみこむ土地→③</p> <p>その他→④</p>	<p>A①</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>	<p>A②</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>	<p>A③</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>
		<p>B①</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>	<p>B②</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>	<p>B③</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>
		<p>C①</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>	<p>C②</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>	<p>C③</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>
		<p>C④</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>	<p>C④</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>	<p>C④</p> <p>自分達の通学路グループでは、()な種類の危険が多い。(そのために、()な安全の工夫をしている。)安全な場所は()である。</p>

7 単元で育成を目指す資質・能力に係る成果（○）と課題（●）

【知識・技能】

地域の特徴に気づき、課題の解決に向けて、事象を比較・分類・関係付ける等の技能を身に付けることができる。

評価規準 防災の視点を理解して、地域の調査を実施している。

- 防災士をゲストティーチャーに招いて、「防災の視点」について直接指導を受けることができた。その直後、自分の住む地域付近のグループフィールドワークに出かけ、土砂災害の危険がある場所の特徴「物がつまって水があふれる水路」「水がしみこみそうな土地」「浸水しそうな土地」などを自分で見つけることができた児童が多くいた。

災害のポイントが校区めぐりに役立ちました。校区内の安全な場所、危険な場所などがよく分かりました。」（児童の振り返りの記述より）

【思考力・判断力・表現力】

対象との体験的なかわりを通して、自ら取り組む課題を考え、集めた情報を整理・分析して分かりやすく表現することができる。

評価規準 校区内にはどんな災害が起こりうるか等の課題を明らかにしている。

- 地域別に3つのグループに分かれて自分の住む地域の近くの危険な場所、安全な場所を調べたことで、より身近な課題としてとらえることができていた。

「ここは危ないから通らないでおこう、と自分で判断することができるようになりました。」

「海と山にかこまれて美しい港町小学校も、海と山に関する災害（津波、土砂災害など）の問題があって危険なことも分かりました。」（児童の振り返りの記述より）

評価規準 校区内の危険な場所や安全な場所について集めた情報を整理・分析して考えを深めている。

- 地域別グループの中で小グループを作り、集めた情報をタブレットのロイロノートのXチャートを使って、「物がつまって水があふれる水路」「水がしみこみそうな土地」「浸水しそうな土地」「その他」の4観点でグループ毎に分類した。自分の住む地域の近くでどんなことが危険かを判断することができた。

評価規準 相手や目的に応じて、ICT機器等を活用し、分かりやすく表現している。

- タブレットのロイロノートのテキストを使用して、自分の家の付近の危険な場所、安全な場所を家の人に伝えるプレゼンテーションを作成した。テキストに写真を貼り付けたカードを何枚か作成し、そのカードを見せながら説明することにした。カード作りまではスムーズにできていたが、調べたことを相手に分かりやすく話すことが難しい児童が多かった。今後国語科の学習と関連させながら、順序立てて話す、考えとその根拠を明確にして話す場面を増やしていきたい。

【主体性】

防災の問題について主体的に取り組む、自分なりに解決しようとする意欲を養う。

評価規準 校区内の防災について関心をもち、課題解決のための方法を考えようとしている。

- 「課題解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいる」という質問項目で、事前事後アンケートを取った結果、肯定的評価の児童が5.6%増えた。「家の付近の危険な場所を家の人に伝える」をゴールにしたことで、児童個々の置かれている状況に合った情報を収集・分析し、相手意識を持って意欲的に取り組むことができたと考えられる。